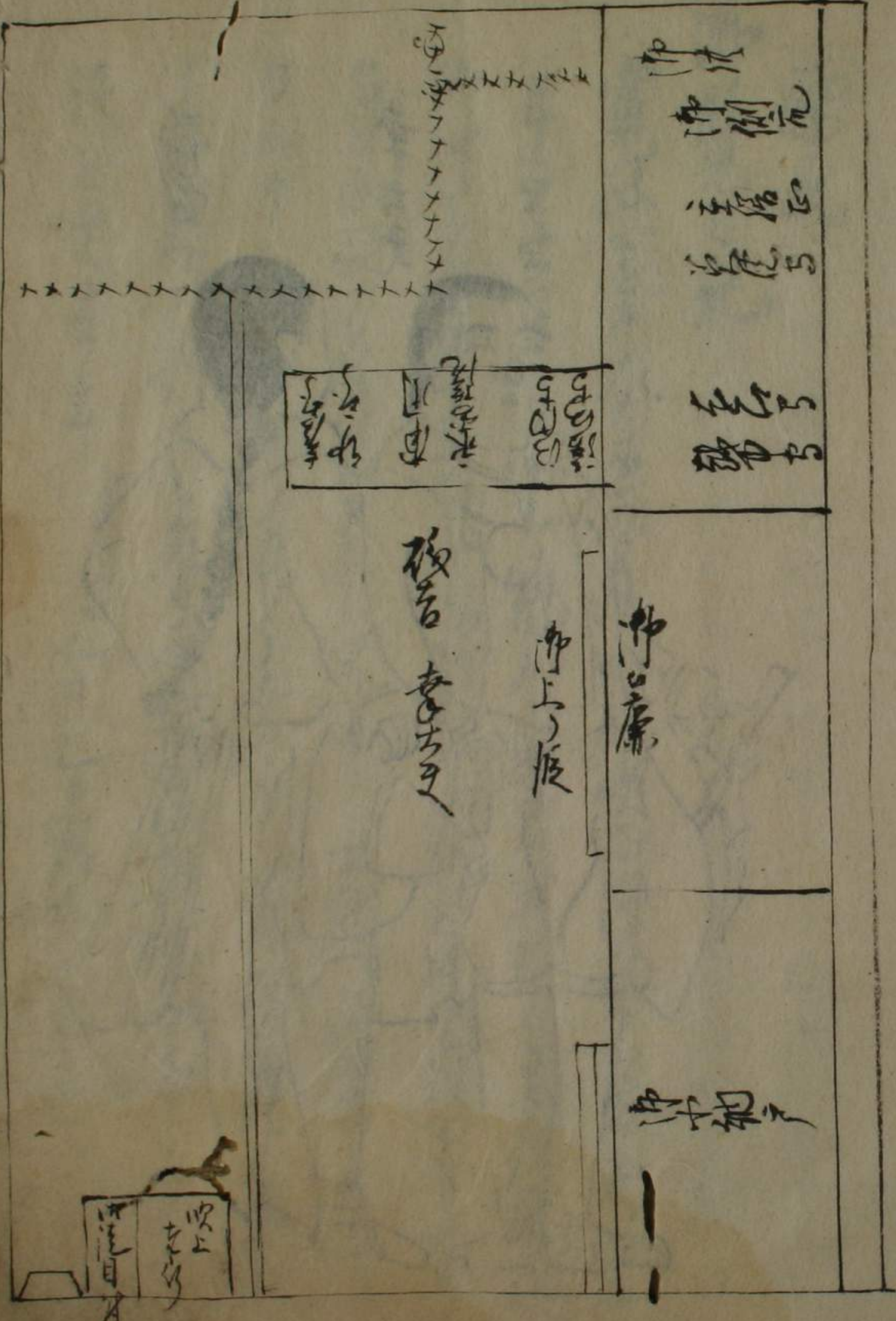


源民御覽之記



門 二
 號 3159
 卷



早稲田大學圖書館
 昭和 32.2.8
 藏書

歌者

幸七史



源氏

佛見之記

寛政の辛酉五月十八日於吹上御坊にて大徳二
 年壬寅の十二月十日に於て白子を出し給へり
 の沖より係り大風吹給ふに日辛酉卯七月廿八
 日魯西亞の屋敷ア、くしウカと云はる係りし又
 カムサリカオホリカイルカウツカ、杯云はる係り
 一歌四段巴別あり魯西亞の歌よむ女帝も見へ
 評と云ふを辛酉 寛政四 九月十日船東の子モロと云は

と波ののちをしきうぬるしと神冒丸のつた
思かきまうく日まをうぬるしと
と波ののちをしきうぬるしと神冒丸のつた
思かきまうく日まをうぬるしと
と波ののちをしきうぬるしと神冒丸のつた
思かきまうく日まをうぬるしと

御座の御座は波の波は花は波の波は
白砂の波は二御座と居るは
ちくぬ午の初刻なり
を百あまの首まうく
高しは結まを光の
くくわの境の如きあを
裂きしは御座の御座は
曰し御座の御座は
ハ白真大小の上ま

右の杖を突、ケリ、杖を、齡、平八、何一、此、本、終、今、を、組、
ま、ら、き、く、ま、さ、る、の、ま、お、の、根、う、し、ゆ、つ、つ、と、さ、さ、り、を、
み、し、ゆ、ら、く、ら、ら、律、吃、呢、の、外、衣、長、の、深、の、衣、組、ゆ、
以、糸、の、摺、り、絨、に、さ、さ、り、縁、を、ま、さ、る、と、さ、さ、り、を、ま、さ、
信、の、天、秋、香、絨、に、襟、を、ま、さ、る、白、莫、大、小、の、上、の、深、水、留、と、ま、
さ、さ、り、を、ま、さ、る、水、留、に、さ、さ、り、を、ま、さ、る、と、ま、さ、り、を、
の、洋、一、つ、に、法、を、の、に、割、包、に、い、れ、な、く、法、の、本、に、
を、地、に、ま、お、を、あ、し、し、た、ら、し、る、者、し、ら、る、新、文、に、
お、の、く、く、り、り、く、ま、い、ん、の、形、に、形、を、髣、髴、し、ら、る、と、ま、
し、

似、こ、く、向、を、り、も、ら、ま、ら、る、ま、る、ま、る、ま、る、ま、る、の、柳、も、
池、り、一、歳、が、十、古、の、一、大、奇、事、と、し、

同 法、門、也、

一、ま、り、た、ら、さ、る、初、を、名、前、に、し、り、ゆ、ら、く、は、地、に、い、り、

並、

ア、い、し、つ、り、と、中、比、に、濁、を、は、い、け、し、ゆ、ら、く、は、年、を、は、く、り、
件、の、美、の、滋、養、意、思、百、合、の、根、を、ち、り、と、者、大、研、で、白、酒、
の、め、く、く、み、か、し、ゆ、ら、く、は、女、の、腮、に、二、本、身、元、の、元、
よ、二、本、身、元、を、し、ゆ、ら、く、は、子、の、身、元、を、し、ら、る、と、ま、さ、り、を、ま、さ、り、

ふは^{チヤ}この角ハ自然ニ生イハ^{チヤ}そのめ^{チヤ}こ^{チヤ}ら^{チヤ}く^{チヤ}綿^{チヤ}の^{チヤ}人

み^{チヤ}の^{チヤ}軸^{チヤ}の^{チヤ}ま^{チヤ}ま^{チヤ}の^{チヤ}割^{チヤ}が^{チヤ}二^{チヤ}寸^{チヤ}の^{チヤ}リ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}一^{チヤ}成

ひ^{チヤ}も^{チヤ}振^{チヤ}は^{チヤ}お^{チヤ}く^{チヤ}う^{チヤ}は^{チヤ}カ^{チヤ}及^{チヤ}ま^{チヤ}う^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}一^{チヤ}成^{チヤ}の^{チヤ}男^{チヤ}子^{チヤ}の^{チヤ}ま^{チヤ}

被^{カムロ}髪^{カムロ}は^{カムロ}少^{カムロ}し^{カムロ}男^{カムロ}曲^{カムロ}ま^{カムロ}る^{カムロ}多^{カムロ}の^{カムロ}毛^{カムロ}を^{カムロ}毛^{カムロ}の^{カムロ}穴^{カムロ}居^{カムロ}く^{カムロ}と^{カムロ}す^{カムロ}は^{カムロ}ま^{カムロ}

カ^{チヤ}ラ^{チヤ}サ^{チヤ}リ^{チヤ}ツ^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}地^{チヤ}上^{チヤ}に^{チヤ}生^{チヤ}れ^{チヤ}は^{チヤ}口^{チヤ}字^{チヤ}細^{チヤ}の^{チヤ}中^{チヤ}に^{チヤ}六^{チヤ}人^{チヤ}死

亡^{チヤ}れ^{チヤ}と^{チヤ}す^{チヤ}病^{チヤ}疥^{チヤ}目^{チヤ}か^{チヤ}め^{チヤ}く^{チヤ}は^{チヤ}ハ^{チヤ}ん^{チヤ}及^{チヤ}ま^{チヤ}う^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}

病^{チヤ}少^{チヤ}く^{チヤ}う^{チヤ}う^{チヤ}ま^{チヤ}は^{チヤ}和^{チヤ}宗^{チヤ}少^{チヤ}く^{チヤ}シ^{チヤ}ケ^{チヤ}ウ^{チヤ}ル^{チヤ}ホ^{チヤ}イ^{チヤ}け^{チヤ}此^{チヤ}ま^{チヤ}く^{チヤ}魚^{チヤ}目^{チヤ}魚^{チヤ}目^{チヤ}

カ^{チヤ}加^{チヤ}比^{チヤ}州^{チヤ}^{カヒシウ}古^{チヤ}名^{チヤ}入^{チヤ}を^{チヤ}ハ^{チヤ}テ^{チヤ}七^{チヤ}八^{チヤ}寸^{チヤ}ボ^{チヤ}イ^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}者^{チヤ}也^{チヤ}也^{チヤ}

オ^{チヤ}ホ^{チヤ}フ^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}比^{チヤ}を^{チヤ}連^{チヤ}治^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}イ^{チヤ}ル^{チヤ}カ^{チヤ}ワ^{チヤ}リ^{チヤ}カ^{チヤ}

眼

と^{チヤ}中^{チヤ}地^{チヤ}上^{チヤ}に^{チヤ}年^{チヤ}深^{チヤ}る^{チヤ}は^{チヤ}は^{チヤ}ハ^{チヤ}ん^{チヤ}及^{チヤ}ま^{チヤ}う^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}者^{チヤ}也^{チヤ}也^{チヤ}

ら^{チヤ}知^{チヤ}れ^{チヤ}お^{チヤ}く^{チヤ}ま^{チヤ}の^{チヤ}求^{チヤ}ま^{チヤ}と^{チヤ}す^{チヤ}一^{チヤ}粒^{チヤ}は^{チヤ}あ^{チヤ}る^{チヤ}面^{チヤ}を^{チヤ}色^{チヤ}目^{チヤ}中^{チヤ}

か^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}と^{チヤ}歩^{チヤ}れ^{チヤ}は^{チヤ}は^{チヤ}ハ^{チヤ}ん^{チヤ}及^{チヤ}ま^{チヤ}う^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}者^{チヤ}也^{チヤ}也^{チヤ}

り^{チヤ}と^{チヤ}を^{チヤ}取^{チヤ}ら^{チヤ}し^{チヤ}て^{チヤ}流^{チヤ}下^{チヤ}る^{チヤ}の^{チヤ}如^{チヤ}く^{チヤ}流^{チヤ}る^{チヤ}と^{チヤ}す^{チヤ}は^{チヤ}あ^{チヤ}る^{チヤ}也^{チヤ}也^{チヤ}

と^{チヤ}眼^{チヤ}を^{チヤ}と^{チヤ}ら^{チヤ}は^{チヤ}し^{チヤ}て^{チヤ}急^{チヤ}解^{チヤ}す^{チヤ}は^{チヤ}ハ^{チヤ}ん^{チヤ}及^{チヤ}ま^{チヤ}う^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}者^{チヤ}也^{チヤ}也^{チヤ}

か^{チヤ}く^{チヤ}と^{チヤ}後^{チヤ}に^{チヤ}右^{チヤ}に^{チヤ}乳^{チヤ}破^{チヤ}す^{チヤ}子^{チヤ}肉^{チヤ}極^{チヤ}め^{チヤ}ま^{チヤ}す^{チヤ}加^{チヤ}

い^{チヤ}と^{チヤ}わ^{チヤ}く^{チヤ}は^{チヤ}ハ^{チヤ}ん^{チヤ}及^{チヤ}ま^{チヤ}う^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}者^{チヤ}也^{チヤ}也^{チヤ}

後^{チヤ}に^{チヤ}右^{チヤ}に^{チヤ}乳^{チヤ}破^{チヤ}す^{チヤ}子^{チヤ}肉^{チヤ}極^{チヤ}め^{チヤ}ま^{チヤ}す^{チヤ}加^{チヤ}

総^{チヤ}に^{チヤ}又^{チヤ}此^{チヤ}の^{チヤ}一^{チヤ}寸^{チヤ}カ^{チヤ}と^{チヤ}る^{チヤ}者^{チヤ}也^{チヤ}也^{チヤ}

しむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
宿のしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
初まのしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
掌のしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
帝のしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
おののしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
少くも侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
仕はぬのしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
細糸を仕むるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人

坐敷のしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
ゆきまのしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人

司膳のしむる

一 大員に侍らぬといふものなり

いふ

右のしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
大員に侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
二階のしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人
柳のしむるに侍らぬといふものなり。いふ名義なり。いふ人

先此の葉の序に云く家門の事を知るは或は此の葉に
焼失したるといふに依りて其の事を知るは或は此の葉に
取らざる事を知るは或は此の葉に

句甫同

一 檜樓の上より大なる自鳴鐘をくやうん及び

とん

注し外へ大造りなり地よりなる車の大は西の
いふ車の演りて形は古らん

句同

一 城門の上より魯西亜中真の帝の伯多線の像が
中なる及び

とん

伯多線の像は世に於ては其の帝の伯多線の像が
中なる磁石をくやうん大に人計りて其の帝
金を入いて下下ら申して其の帝の伯多線の像が
を挺て其の帝の伯多線の像が
振いて其の帝の伯多線の像が
振いて其の帝の伯多線の像が

同用

一ムスツワム大石中へ入るるこゝや及んぬ

恙

鏡口へ入り仰し手と逆ひし指をさしはさし
ハシロヤとあらん中へ河而か大産出するは鏡
いゆより産出大塊と略言入床の周りを
此一と河へ下りして中へ入るは
大なるりるは産出は多し
此等白目と一書目は二ふむ百メ也

是乃ちゆら
中へ入るは

一ムスツワム大石中へ入るるこゝや及んぬ

同用

一馳はん及んぬ

恙

ヤカウウカウ〜イルカウウカへ入るるは及んぬ
一飛産出ありは及んぬ大く脊へ産出するは及んぬ
此等細中へ入るは及んぬ

同用

一たごこは方同産出は及んぬ

あしひくわんしん

道

は方よりハ下品なるはやくとメハコとPは二つあり
嵯峨もさすしつねもさすは石もさ望は白田と天
火とさそれれもはなすは初なるといふは天火
まへに後中よりなるはつねなるといふは推中
いづれなるいふ

河

一 氏名 推古

道

右卿之儀一向を及中は皇祖神の人跡危程と古
仕はとらんおははきくは人の踏名をわししはまはは
の折れつる及中は孫師の持はつるをたすは中
多無事とらわしは皇祖神の人跡危程と古
又おはは純く一向切中はかあるは荒礎と白研
おはははくくは望し

道

一 式 中 人 推古 神 跡 危 程

善

是におても澄ちるるみぢきし雲のまよひく風
他車の待はくは仕るる女まき幸せし雲の
はくは花のまよひくは女帝のまよひくは
ゆき雲のまよひくは女帝のまよひくは
併治使の御御あらんは女帝のまよひくは

可後

一首もまよひくは女帝のまよひくは

善

備下下ケハ女帝の御は時斗くは女帝のまよひくは
メシダアリ。しり物ありしは女帝のまよひくは
家あるの御行面ハ女帝のまよひくは
わさししとも女帝のまよひくは
も魯西亞ありしは女帝のまよひくは
おははあてはくは女帝のまよひくは
と外の人とも女帝のまよひくは
一市ハ流らるる御まよひくは

右の言は

上様は此の御酒氏にては御座ると

一 叔父の友も御座り又は白紙の紙を御座り及御座り

換なきを以て油縁乞の吹嘘泥之候を以て老翁の

ランヤド

回讀

一 此の方たるは魯西亜あり救命の忍みわら

候儀も存り候なり。有るは此の候も存り候なり大

切に御座り候なり

言

君は此の候に柳の候も存り候なり大切

候なり御座り候なり

同感申す

一 左の御座り候なり此の候も存り候なり大切

お座り候なり

言

此の候も存り候なり此の候も存り候なり大切

の候も存り候なり此の候も存り候なり大切

此の

ありては言ふに合く右海人の扱ひありて中々ありて
いひて招き候

句載のち

一 佛光より耶蘇^{キリスト}字のふ入て改宗は信名、字二日あり
と送し後へ向て嚙心しとよまうと石を改め申命
名を改めたりとありと送せりゆらん及ん日首と云

善

佛光よりあくるはた名を辨^ハし候しありと送せりゆ
し右のい小兒七度あり名を辨し候と大辨ありと

海へ小兒をあり申すに夜没し以上ありと名を辨し
小兒はしと云ふは

句載

一 宗門より入すはう右のいと申す及ん及んありと

善

ありとよまひをねんが別なりは別方よまうありと
の世といひしとたとおひと名と云ふは右のい大辨
はせたり候しとん物は北よりあり

句載

一 中又のふのぬい物をせらるるに及ぶ

云々

その家への入りよをケ人くくもそくくもさしはるを。キ
リス。とやい但十又の家くくもさる東屋りの様本
をらち入は物くくもたはたし人の宅はさくくもさ
きくもくくも先は伊禮をねくくも上りくくも人接好
はくくもくくもくくもくくもくくもホーフ。くくもホーフハ
よくくもくくも印天のくくもくくもくくもくくもくくも

句川

一 碓ヒイトロふとりのひをくくもくくも

云々

私へくくもユルホル。くくも出はくくも後中くくも端を信くくもはくくも
キリロ。くくもくくもくくも碓子勝めくくもくくもくくもくくもくくも
左はくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくも
くくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくも
板碓子を吹くくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくも
荷くくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくも
第くくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくもくくも

あまの湯よりあまの川の電の内並へて燈はあまの
延ひいてあまの湯を成す

四用

一 満の別法はつん及び

三書

此のつん物は地を極めて魔といり原板を蓋
とにさく穴を極めて上とちとをうね板の敷き
指を大木と積して火をこくやうに火のいつても
生草とせほひの意焼は信一下の魔へ自然に後

山満一汁めく上よの二年に信は下とのめり
山に在り

四用

一 吟囉呪の織方ん中

三書

所記の字は誤り多し字不分明

是又つん物は江は信草の元を傷まいて実板の織
織とはそれとあを噴くこと名の原に刷毛かてあまの
あまの湯

四用

一 曹西更にありて此の比に海に舟を月夜にたつたるありて

と云ふ

さの4額よりそよひの思ひ月。八九月の比に夜
中と海に舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月
振る海に舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月

同 駿

一 舟を格うらむ心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月

と云ふ

たつたる心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月

をたつたる心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月
と解る舟よりそよひの思ひ月よりそよひの思ひ月

四月

一 舟を格うらむ心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月

と云ふ

大抵舟を格うらむ心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月
舟を格うらむ心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月
舟を格うらむ心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月
舟を格うらむ心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月
舟を格うらむ心ありて舟をたつたる思ひ月よりそよひの思ひ月

おししつた

四月

一 へスクリ。小太ちる石橋の目くははつる物いふ

善

二 橋の橋いへ高野橋より佐橋とては佳事也

句い

一 橋方あり目本ののりこ橋居り

善

何よりまうとて能存居るをい目本ののりまをい

記い古物も目本ののりまをい目本く

ハ橋川南風の中川流居り

も存居り目本ののりまをい

中川の若川の侍医権年二為死候

句載

一 水車風をいふ及ん

善

水車ありて水車は水車をい

水車は水車をい

是ハ流門等ニホリキルアリト云フニハ
不中ニ

一 四鐵

一 都の合本は海女の授石之股骨等ニ
云フニハ

云

尺中ハアノ文群古キル中ニハ
云フニハ

初ニ海女取立ニテ云フニハ
目下ハ其おれに難キル所及ニハ
紅先人ノ使則カ

一 海女ノ取立ニテ云フニハ
云フニハ

云フニハ
云フニハ

云フニハ
云フニハ

云フニハ

一 イルカワリワカ。云フニハ
云フニハ

云フニハ

云フニハ

乃其... 物... 之... 也

侍医法眼極川甫周不瑞誌

吉日氏藏書



